世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者京都大会

戦争の根本解決は教育と宗教

北野天満宮

11月20日、京都市の北野天満宮で第43回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者京都大会が「戦争と平和―なぜ人類は戦いを止めないのか―」をテーマに、世界連邦日本宗教委員会の主催で開催された。

初めに、北野天満宮本殿で世界平和の祈りが神道式で執り行われた。斎主の神原孝至北野天満宮権宮司、祭員、実行委員が所定の座に着き、修祓、献饌に続き斎主が祝詞を奏上した。菅原道真公の和歌に曲と舞をつけた神楽舞「紅わらべ」が奉奏され、斎主に続き大会長の橘重十九北野天満宮宮司、神道代表の田中安比呂智茂別雷神社名誉宮司、仏教代表の小森文道比叡山延暦寺副執行、教派神道代表の出口紅大本教主、新宗教代表の佐原透修立正佼成会総務次長、参列者代表の田中恆清石清水八幡宮宮司が玉串を奉って拝礼した。撤饌の儀、斎主一拝、祭典は滞りなく修められた。

講演する山本忠通氏＝11月20日、京都市の北野天満宮

開会式の祈りの言葉の時間では、三笠宮崇仁親王妃百合子殿下薨去に際して喪に服し、導師の一宮良範同委員会理事（念法眞教教務総長）の言葉で「第43回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者京都大会に参加した私たちは、今心を一つにして祈ります」に答え、全員が「世界がほんとうに平和になり、すべての人々が幸せでありますように…」と唱和し、黙祷を捧げた。

副実行委員長の宗野史生神道扶桑教管長が「皇居遥拝、三条教憲奉唱のゆかりの地である風月殿で大会が開かれることを嬉しく思う」と開会の辞を述べ、大会長の橘重十九北野天満宮司は「神道は万物生命教で、そこから生まれた価値観の共存が世界の紛争や宗教間の争いを解決する。共存共栄の精神で平和が構築されることを願う」と語った。田中恆清実行委員長は「宗教委員会は昭和42年に設立され今年で57年目になる。これからも続けていくことが大切だ」と述べた。石倉寿一日本宗教連盟理事長は「真の平和の実現にむけて諸宗教間対話と平和への祈りを積み重ねることは、世界に『相互敬愛』の精神を示す機会となる」と、続いて世界連邦日本宗教委員会の山本忠通理事長が「戦争と平和―なぜ人類は戦いを止めないのか―」と題して以下のように講演した。

今の国際情勢は冷戦後一番厳しい。ウクライナとロシアの間にはNATOの拡張やロシア系住民などの問題があった。パレスチナではオスロ合意で二国家両立が合意されたが、ハマスはイスラエルを認めない。これらの問題の根本は理念の違いである。

2023年の紛争の死者数は過去最大で、国連の努力も機能していない。グテーレス事務総長は去年9月、「今の国際社会には大きな問題が三つある。国際法の無視、武力の行使、そしてダブルスタンダードだ」と演説し運動協会の大橋光夫会長のメッセージを木戸寛孝事務総長が代読した。

次に元国連事務総長特別代表の山本忠通氏が「国際社会の厳しい現状と課題」と題し以下のように講演した。

楽舞「紅わらべ」の奉奏

挨拶する田中恆清実行委員長

灯

「エルサレムよ、悲しみと不幸の衣を脱ぎ、神から与えられる栄光で永遠に飾れ。／神から与えられる義の衣を身にまとい、頭に永遠なる者の栄光の冠をつけよ。／神は天の下のすべての地に お前の輝きを示される。／お前は神から「義の平和、敬神の栄光」と呼ばれ、その名は永遠に残る。／エルサレムよ、立ち上がれ、高い山に立って東の方に目を向けよ。／お前の子らは、神が覚えていてくださったことを喜び、西からも東からも 聖なる者の言葉によって集められる。／お前の子らは敵に追い立てられ、徒歩でお前のもとを去ったが、／神は彼らを、玉座につく王のように高く上げ、栄光のうちにお前のもとに連れ戻される。」（バルク書5：1―7）

キリスト教世界はアドベント（待降節）に入った。主の降誕を迎える準備の季節。礼典では、苦難の中に希望の光を見いだす預言が多く読まれる。外典のバルク書はバビロン捕囚期に囚われの中で語り祈ったことを記したとされる。混迷する今日の世界でバルクのごとき、希望の光を放つ預言は、どこにあるのだろうか。（1）

社説

「同行二人」という救い

空海生誕1250年の昨年から四国遍路が増えている。今年はうるう年で、逆回りをするとお大師さんに会えるという信仰が、今もある。遍路衣装の菅笠に「同行二人」と書かれているのは、一人で歩いていてもお大師さんと二人という信仰である。

お大師さんの奥にはお釈迦様が、その奥には密教の本尊である大日如来がいる。大日如来は大宇宙の人格的表現で、それと同行するのは、仏教以前のバラモン教が目指した「梵我一如」、つまり大自然と一つになるのに近い。四国という曼荼羅世界を巡りながら、その境地を味わうのが四国遍路の醍醐味で、空海が説いた救いの形である。

空海は、「仏の教えは、遥かなたにあるものではない。我々の心の中にあって、まことに近いのである」と語っている。「悟りを求める心を起こすと同時に、悟りに到達している」とも。即身成仏の教えが身近に感じられる。

原恩主義の日本人

釈迦は生老病死の四苦の原因が煩悩にあることから、修行により煩悩を否定することで悟りに至れるとした。つまり、仏教は否定の思想である。それに対して大乗仏教の最終ランナーである密教は肯定の思想と言えよう。煩悩は生きている限りなくすことはできないので、煩悩の生かし方を考えた。悟りの世界に生まれた私が、煩悩に気づき肯定しながら生きていく、煩悩即菩提の教えである。

そのための修行が、手に印を結んで身体を限りなく仏に近づけ、口で仏の言葉である真言を唱え、心で仏の心を感じること。言い換えれば大日如来との一体化である。

仏教とりわけ密教には人間への根底的な信頼がある。キリスト教の原罪主義に対して、仏教は原恩主義とも言えよう。キリスト教では、人は生まれながらに「原罪」を背負っているから、贖罪のために生きることになる。

内的成長を喜ぶ

今年の明るい話題にふれると、アメリカの社会現象にまでなった大谷翔平選手は、心理学的には自己目的的性格の持ち主だという。そういう人は、報酬を期待することなく、自分の活動そのものを楽しみ、フローと呼ばれる、時間を忘れて没頭するような精神状態を経験し、強い幸福感や充実感を味わう。アスリートには、そんな状態を「ゾーン」と呼ぶ人が多い。

これは日本人の信心に近いのではないか。外的報酬より内的成長を喜ぶ心性で、それが日本人の倫理を支えている。高齢社会を健康長寿で生きるヒントもそこにありそうだ。

梅原猛は「親鸞において、地獄をつき詰めることにより、無限の生の喜びにいたる思想を見た。暗い生の相をも直視できる生の勇気、そこに日本文化の健康さがある」と言う。

今年の展覧会で印象的だったのは夏、大阪中之島美術館で開かれた「開創1150年記念醍醐寺国宝展」である。醍醐寺は平安時代前期の貞観16年（874）、理源大師聖宝（しょうぼう）によって開創された真言密教の拠点寺院の一つ。聖宝は空海と同じ讃岐の塩飽諸島・本島の生まれで、空海の実弟・真雅の弟子。宇多天皇の厚い帰依を受け、東寺長者、僧正などを務めた。また、役小角に私淑して吉野の金峰山で山岳修行を行い、修験道の再興の祖ともされる。聖宝の直弟子が醍醐寺初代座主の観賢（かんげん）で、讃岐生まれの観賢は東寺長者の時、空海への大師号下賜に貢献したことで知られる。

醍醐山の頂上にある上醍醐に登ると、聖宝らにより日本古来の山岳信仰と真言密教が融合した信仰の場に出会う。醍醐寺の始まりは、聖宝が笠取山の山頂に草庵を結び、准胝観音と如意輪観音を祀ったことにある。やがて醍醐寺は醍醐天皇の御願寺となり、天皇の庇護のもと上醍醐に薬師堂や五大堂が建立された。薬師堂には今日に伝わる薬師三尊像をはじめ吉祥天立像や帝釈天騎象像などが祀られた。上醍醐は開祖聖宝ゆかりの聖地として特別な信仰を集め続けている。

内的成長を喜ぶ

今年の明るい話題にふれると、アメリカの社会現象にまでなった大谷翔平選手は、心理学的には自己目的的性格の持ち主だという。そういう人は、報酬を期待することなく、自分の活動そのものを楽しみ、フローと呼ばれる、時間を忘れて没頭するような精神状態を経験し、強い幸福感や充実感を味わう。アスリートには、そんな状態を「ゾーン」と呼ぶ人が多い。

これは日本人の信心に近いのではないか。外的報酬より内的成長を喜ぶ心性で、それが日本人の倫理を支えている。高齢社会を健康長寿で生きるヒントもそこにありそうだ。

梅原猛は「親鸞において、地獄をつき詰めることにより、無限の生の喜びにいたる思想を見た。暗い生の相をも直視できる生の勇気、そこに日本文化の健康さがある」と言う。

今年の展覧会で印象的だったのは夏、大阪中之島美術館で開かれた「開創1150年記念醍醐寺国宝展」である。醍醐寺は平安時代前期の貞観16年（874）、理源大師聖宝（しょうぼう）によって開創された真言密教の拠点寺院の一つ。聖宝は空海と同じ讃岐の塩飽諸島・本島の生まれで、空海の実弟・真雅の弟子。宇多天皇の厚い帰依を受け、東寺長者、僧正などを務めた。また、役小角に私淑して吉野の金峰山で山岳修行を行い、修験道の再興の祖ともされる。聖宝の直弟子が醍醐寺初代座主の観賢（かんげん）で、讃岐生まれの観賢は東寺長者の時、空海への大師号下賜に貢献したことで知られる。

醍醐山の頂上にある上醍醐に登ると、聖宝らにより日本古来の山岳信仰と真言密教が融合した信仰の場に出会う。醍醐寺の始まりは、聖宝が笠取山の山頂に草庵を結び、准胝観音と如意輪観音を祀ったことにある。やがて醍醐寺は醍醐天皇の御願寺となり、天皇の庇護のもと上醍醐に薬師堂や五大堂が建立された。薬師堂には今日に伝わる薬師三尊像をはじめ吉祥天立像や帝釈天騎象像などが祀られた。上醍醐は開祖聖宝ゆかりの聖地として特別な信仰を集め続けている。

内的成長を喜ぶ

今年の明るい話題にふれると、アメリカの社会現象にまでなった大谷翔平選手は、心理学的には自己目的的性格の持ち主だという。そういう人は、報酬を期待することなく、自分の活動そのものを楽しみ、フローと呼ばれる、時間を忘れて没頭するような精神状態を経験し、強い幸福感や充実感を味わう。アスリートには、そんな状態を「ゾーン」と呼ぶ人が多い。

これは日本人の信心に近いのではないか。外的報酬より内的成長を喜ぶ心性で、それが日本人の倫理を支えている。高齢社会を健康長寿で生きるヒントもそこにありそうだ。

梅原猛は「親鸞において、地獄をつき詰めることにより、無限の生の喜びにいたる思想を見た。暗い生の相をも直視できる生の勇気、そこに日本文化の健康さがある」と言う。

今年の展覧会で印象的だったのは夏、大阪中之島美術館で開かれた「開創1150年記念醍醐寺国宝展」である。醍醐寺は平安時代前期の貞観16年（874）、理源大師聖宝（しょうぼう）によって開創された真言密教の拠点寺院の一つ。聖宝は空海と同じ讃岐の塩飽諸島・本島の生まれで、空海の実弟・真雅の弟子。宇多天皇の厚い帰依を受け、東寺長者、僧正などを務めた。また、役小角に私淑して吉野の金峰山で山岳修行を行い、修験道の再興の祖ともされる。聖宝の直弟子が醍醐寺初代座主の観賢（かんげん）で、讃岐生まれの観賢は東寺長者の時、空海への大師号下賜に貢献したことで知られる。

醍醐山の頂上にある上醍醐に登ると、聖宝らにより日本古来の山岳信仰と真言密教が融合した信仰の場に出会う。醍醐寺の始まりは、聖宝が笠取山の山頂に草庵を結び、准胝観音と如意輪観音を祀ったことにある。やがて醍醐寺は醍醐天皇の御願寺となり、天皇の庇護のもと上醍醐に薬師堂や五大堂が建立された。薬師堂には今日に伝わる薬師三尊像をはじめ吉祥天立像や帝釈天騎象像などが祀られた。上醍醐は開祖聖宝ゆかりの聖地として特別な信仰を集め続けている。

第8回「世界平和祈りの幕開け」

諸宗教が「平和の祈り」捧ぐ

神戸市

開会式で挨拶する杣浩二理事長＝11月11日、神戸市内の会場

11月11日、「世界平和祈りの幕開け」が神戸市内のホテルで開催された。NPO神戸平和研究所（杣浩二理事長）の主催で毎年行われ、今年は第8回。ユダヤ教、イスラム教、キリスト教、神道、仏教などの伝統宗教、天理教や大本教など新宗教の代表、各国大使など約330人が参加した。

同研究所は2010年に設立され、各宗教の共通点を学び合い、宗教のルーツは一つで、世界文化は共通であることを論証する出版物を日本語や英語で発表してきた。開会挨拶で杣理事長は、研究論文がヘブライ大学に認められ、ハーバード大学やオックスフォード大学など主要大学の連携機構であるボード・オブ・ガバナーズでの記念講演と表彰が決まったことを報告した。講演は来年6月、ヘブライ大学で行われる。

研究の基礎になったのはモルドバ生まれのユダヤ人、アビグドール・シャハン教授の先行研究。同教授は著書『失われたイスラエル十部族の足跡』で、古代イスラエルと日本との共通性に言及している。杣理事長は、世界一長い文化を持つ日本に大きな使命があると感じ、宗教間の対話と協調による世界平和を目指してシャハン教授に師事してきた。昨年、英語で出版した『二つのシオンと二つのエルサレム』は、旧約聖書に記された「もう一つのエルサレム」が日本であることを論証している。

続いて、来賓のルクムエダ・センダ駐日コンゴ大使、グレイソン・イシエンゴマ駐日タンザニア参事官、マルコ・プレンチペ在大阪イタリア総領事が紹介され、センダ大使は、「神戸は100を超える国籍の人々と、彼らが信仰する多くの宗教施設が共存する街。この地から理解と尊敬の精神が世界に広がることを願う」と祝辞を述べた。

神戸平和研究所は、アインシュタインや湯川秀樹が提唱した世界連邦運動に協力している。同協会の谷本真邦理事が挨拶で同運動の歴史を紹介し、世界法を運用する世界機関の必要性を訴えた。また竹岡誠治理事が「一般社団法人阿波ヤマト財団」の設立を紹介し、同財団が進める阿波古代史研究に期待を寄せた。

メインプログラム「平和の祈り」の時間では、ユダヤ教、イスラム教、仏教、神道、大本教、天理教、キリスト教の聖職者がそれぞれの伝統に従って祈りを捧げ、参加者全員で世界平和を願う祈りの時間を持った。

次いで、表博輝理事による伝統神楽とバイオリニストのマウロ・イウラート氏による西洋音楽が融合したパフォーマンスが披露された。

第二部では、イウラート氏のバイオリンと佐野まり子氏のピアノによる音楽が流れる中、会食が始まった。参加者が事前に寄せ書きした「祈りのメッセージ」の披露、笑いのセレモニー、世界共通語であるエスペラント、世界の宗教施設が集まる神戸北野まちづくりなどが紹介され、300人を超える参加者が国籍や宗教を超えて交流する場となった。「世界平和祈りの幕開け」は、来年も11月11日に開催される。

センダ駐日コンゴ大使（左）と杣理事長

社告

新年号から紙面の大きさが半分、タブロイド版16ページに。1面カラーで、記事が読みやすくなります。

天地

神原孝至北野天満宮権宮司が閉会の辞を述べた。

NHKの新プロジェクトX旧作アンコールでホテルニュージャパンの火災と、麹町消防署永田町出張所・特別救助隊による救援が放映された。昭和57年2月8日深夜のことで、天地子も翌朝、テレビを見て驚いた。本紙の初代社主・松下正寿の事務所が同ホテルにあったからだ。あわてて秘書に電話すると、同夜、先生は帰宅していて無事だというので胸をなでおろした▼松下社主は以前から同ホテルに事務所を構え、三笠宮崇仁親王やソウルから李方子（まさこ）女史らを招いてのパーティーなども同ホテルで開いていた。国会議事堂に近く、自民党の藤山愛一郎や松野頼三も事務所を構え、高級ホテルの一つだった▼不思議な縁は、5年ほど前に泊った奈良のゲストハウスで、救援活動に参加した元消防隊員に会ったこと。今は秩父市に住んでいるという老紳士と深夜まで話し込んだ▼松下社主の母・亀徳（きとく）しづは、八戸市出身の作家三浦哲郎の小説『しづ女の生涯』のモデルで、近代助産婦の草分け。その縁で社主の追悼集に「温顔」という文章を寄せてもらった。昭和56年にTBSで『しづの生涯』が大空眞弓の主演でドラマ化され、当時、赤坂のTBSまで社主らと試写会に行ったのも懐かしい▼東京にいた頃は、社主が85歳で亡くなったクリスマスイブの12月24日、多磨霊園に墓参していたが、Uターンしてからは上京に合わせ挨拶に出向いている。祈ると想い出が走馬灯のように脳裏を巡る。

宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940（代）
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2024

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製 1785円（税込）
株式会社ヒカルランド
〒162−0821 東京都新宿区津久戸町 3-11
電話：03-6265-0852 FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
出雲井晶 著
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

読みやすく、理解しやすく、真髄を極める達意の新訳
クルアーン
やさしい和訳
監訳著・水谷 周 訳補完・杉本恭一郎
2019年7月第3版発行、資料増補、大改訂 定価2700円＋税
国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03−5970−7421

日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国。その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル102A
TEL 03-3813-6344 Fax 03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

新刊！
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土真想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15 ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000 Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

山喜房佛書林
補陀洛信仰の研究
神野富一 著 A五判 五八〇頁 本体一六、〇〇〇円
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
弘法大師聖句集成
福田亮成編 B六判 二九〇頁 本体五、八〇〇円
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554

仏教の危機人生の危機に希望の矢を放つ…三部作
浄土真宗の智慧 釈尊から親鸞に学ぼう 定価1200円＋税
寺院経営がピンチ！ 坊さんの覚悟 定価1200円＋税
死に方の流儀 中村メイコさんと山折哲雄先生に訊く 定価1200円＋税
瑞田信弘（たまだ・のぶひろ）・著 浄土真宗本願寺派称讃寺住職
発行：アートヴィレッジ
〒663-8002 西宮市一里山町 5-8-502
TEL 050-3699-4954 FAX 050-3737-4954
URL：https://artvillage.thebase.in/